

綿陽市との交流事業について

1 交流開始前の経過

1983年からの農業者大学の農業技術研修生の受入れ
1989年からの広島県立大学留学生の受入れ
1990年四川省歌舞劇院庄原公演実施

2 協定に基づく相互訪問・青少年相互訪問・周年行事の状況

庄原⇒綿陽	1989年(平成元年)から2019年(令和元年)まで24回(公式訪問12回) 延べ259人
綿陽⇒庄原	1990年(平成2年)から2018年(平成30年)まで25回(公式訪問13回) 延べ192人
庄原⇒綿陽(青少年)	1999年(平成11年)から2019年(令和元年)まで6回 延べ学生60人・随行者27人
綿陽⇒庄原(青少年)	2000年(平成12年)から2018年(平成30年)まで5回 延べ学生66人・随行者23人
10周年 記念事業 2000年(平成12年)	①綿陽市へ「綿陽庄原友好小学校」を建設 庄原市が400万円寄贈 9月落成 ②庄原市へ中国風友好休憩施設「富楽」を建設 綿陽市が420万円寄贈 翌年5月落成 ③「記念式典」・「綿陽市芸術団」公演を庄原市で開催 11月 芸術団公演 計1,729人
20周年 記念事業 2010年(平成22年)	①友好協力協定締結「20周年記念式典」を綿陽市で開催 庄原市友好訪問団6名(通訳・随行者含む)、庄原市市民友好訪問団52名(随行者含む)計58名で綿陽市を訪問し記念式典に出席。9月 ②「綿陽市芸術団」公演・綿陽市パネル写真展の開催 10月 計1,616人

3 その他交流実績

綿陽市農業技術研修生の受入 1991年(平成3年)～1995年(平成7年)	1991年(平成3年)12月から研修生の受け入れ事業を実施。※1996年(平成8年)に同事業は終了し、青少年の交流を中心とした事業展開を図ることとした。 平成3年：2名 平成4年：2名 平成5年：2名 平成6年：2名 平成7年：2名 計10名
庄原市制施行50周年記念事業・庄原市綿陽市友好交流事業 2004年(平成16年)10月～11月	四川料理フェア・中国物産展(食彩館しょうばら「ゆめさくら」)綿陽市から2人のホテル料理長を招いて四川料理フェアを開催。延べ6,000人を超える市民・観光客が本場中国の味を堪能した。また、物産展では多くの方が中国文化に触れた。
四川大地震による綿陽市への義援金贈呈 2008年(平成20年)	四川省で5月12日にM7.5の地震が発生。震源は成都の北西92キロの汶川(グンゼ)。募金活動などを行い、集まった義援金を綿陽市に対して復興資金として贈呈。義援金：7,769,600円・署名：1,891人
庄原市豪雨災害に際し義捐金贈呈 ・綿陽市北川国家地震遺跡博物館建設視察団の受入 2010年(平成22年)	庄原市豪雨災害に際し綿陽市より義捐金8万円(日本円843,200円)が贈呈される。 綿陽市旧北川県保護工作指揮部指揮長 李 正寿 ほか 計11名(男9名、女2名)神戸市ほか地震関連施設視察 12月

4 国際友好都市交流事業の成果

交流事業という事業特性から、成果を数値で表すことが困難なため、事業評価シートの成果(アウトカム)を交流人数としていますが、担当課として次のとおり事業成果があったものと考えています。

- ①日中国交正常化から40年以上経過し、この間政府間の緊張状態がある時期を乗り越え、30年にわたり地方都市間で友好交流を継続している。(1983年の農業者大学の農業技術研修生の受入れを含めると35年以上)
- ②現在、綿陽市では韓国、アメリカ、イタリアなど数カ国の都市と交流を実施しているが、本市との交流の歴史が最も長く、綿陽市政府幹部は本市を「古くからの友人」として重要な交流相手として位置づけている。
- ③「古くからの友人」という信頼関係の中で、両市で発生した災害に対し相互に支援を行っている。
- ④友好協定締結当時は、農業技術研修生招聘事業を実施し、10人の研修生が農業技術を習得し綿陽市の農業発展に寄与している。
- ⑤友好協定締結10周年及び20周年記念事業で実施した芸術団の招聘により、3,300人以上の市民が中国四川省綿陽市の文化に触れることができた。また、庄原市制施行50周年記念事業として、四川料理フェア・中国物産展を実施し、延べ6,000人を超える市民・観光客が本場中国の味を堪能するとともに、物産展では多くの方が中国文化に触れることができた。
- ⑥行政間交流を土台とした青少年交流を実施することにより、次代をになう人材が他文化を持つ人達と交流することによって国際的な感覚を養うことにつながっている。ホームステイを経験した子どもたちからは「異なる文化を肌で感じることで良かった」などの感想が寄せられている。
- ⑦これまでの交流経過をふまえ、平成30年度に国際交流協協会・日中親善協会の役員を中心に民間の庄原綿陽友好推進協議会が組織され、綿陽市を訪問し担当窓口との協議により民間交流のあり方を模索している。